

31 2 3 4 5 6 7 8 9

方言録音資料シリーズ-8

高知県幡多郡大方町方言

土居重俊編

1968

も く じ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本 文	
1. 木 挽 閑 談	5
2. 漁師の思い出話	16
注	34

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、高知大学教授 土居重俊 が担当した。

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：高知県幡多郡大分町

2. 収録地点の概観

中村市の東方に位置する島村兼瀬村。広い海岸線と松林に囲まれた町。幕政時代は幡多郡入野郡と呼ばれた。昭和18年3村が合併して大分町となり、昭和31年に4村合併。米原に尊良親王行在所跡がある。産物として米・麦のほかナロール（芳樟）・葉たばこの生産が盛んである。国道56号線が町を東西に貫通して、近く国鉄中村線が開通する。

3. 収録した方言の特色

四つがなを区別する。連母音が長音化されない（特殊の語別的現象は別）。ガ行ダ行の前の母音が鼻音化する。ソーニカーラン（そうらしい）、ノーガワリー（具合が悪い）などの用法があり土佐方言的特色をよく備えている。ただしアクセントは乙種である。

4. 地点選定の理由

幡多方言の代表的地点と思われる。

表記について

〔指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号〕

特になし

1. nasalizationが強く出る場合（たとえば〔niⁿgãt^u〕）も、弱く出る場合も、一律に $\tilde{\square}$: $\tilde{\square}$ \tilde{r} のように表記してみた。

1. 木 挽 閑 談

録音日時 1967年9月3日

録音場所 林家(大方町渡川)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住部)

H 林八十次 男 明治15年生 木挽→農業 高知県幡多郡大方町渡川に永住

解説: 老木挽が木を切る体験談を相当具体的に話している。

H kobikisuru hitowa nahe: ima dabano: gaqko:-
 木挽をする 人は いないね 今 駄場の(地名) 学校
 no sorano tju:kitijo ima takakiku^[1]jone: tju:wa
 の 上の 忠吉よ 今 高木の家よね 忠は
 naikendo ano ieo tateru tokiranine: kuboka-
 いないけれど あの 家を たてる ときなどにね 藤川
 watjo:no matubaka: ju: tokorono okuni oresa
 町の 松葉川と いう ところの 奥に オレアイ
 (地名)
 ju: kan^[2]ko: ga aru[~]ga unto butoi jamarasi[~]ga
 という 官公が あるが うんと 大きい 山らしいが
 ano ieno ano ieno honbasirawa toga:no toga:-
 あの 家の あの 家の 本柱は 桐の 桐
 no sorja riqpana kio sanzjakakuba:no monoo
 の それば りっぱな 木を 三尺角くらいの ものを
 kasj[~]ade: ako ite kio ko:tjoite kasj[~]ade zu:-
 荷車で あそこへ 行って 木を 買って置いて 荷車で ず
 qto torimahite gaqko:no simono mitino hata^[3]
 っと 取りよせて 学校の 下の 道の けた
 ni: hatakega aqta[~]n arei korobasitjoitene:
 に はたけが あったが あれに ころばしておいてね

aremãdja: ðojara kojara togtikitjoru hikitega
 あそこまでは どうやら こうやら 取って来ているが 引く人が
 nakaqtãgajo soituo sanzjakũtiba: no mondja-
 知かったのよ。 そいつを 三尺四方ぐらゐの ものだ
 ken sanzjakuno kakuba: no monoo: kakuni
 から 三尺の 角ぐらゐの ものをね 四角に
 za:qto batao kẽduqte sanzjakukakuno monoo
 ざっと 側面を けずって 三尺角の ものを
 soreo toqti kite hikitega nakaqtãgajo dareq-
 それを 取って 来て 引き手が なかったのよ 誰
 tja: hikitega soreo hikunja: are õgajo are
 も 引き手が それを 口には ほら オガよ ほら
 õgao areðake emãde sasikondati denro õgano
 オガを あれだけ 柄まで さしこんでも 出ないぞろろ オガの
 taketumona: nisjakurokusunba: sika naiken sonde
 長さというものは 二尺六寸ぐらゐしか ないから それで
 rjohirakara⁽⁷⁾ soituo zu:qto hikanja ikanãgajo
 四方から そいつを ずーっと ひかなきや いけないよ
 rjohirakara sono: koqtjai ma:ri aqtjai ma:ri
 四方から その こっちに まわり あっちに まわり
 koqtjai ma:ri zu:qto hi:te ma: hutatuni
 こっちに まわり ずーっと ひいて まあ 二つに
 sitara sorja sijoiwa hutatuni sitara kondo
 したら それは 容易だ 二つに したら 今度
 hiqkurikaesitara mo: sjakũgosundjakenne: sorõ-
 ひっくりかえしたら もう 一尺五寸だからね それ
 djaqtara ðarõdemo bikeru monjo sorja hazime-
 だったら 誰でも ひける ものよ それは はじめ
 no: sanzjakuno kakuno monoo huta-tuni suru
 の 三尺の 角の ものを 二つに する
 monõga nakaqtane:
 ものが 無かったね。

taite kono: o: sakakara sagamaðeno aĩdano
 ほんとに この 大威から 佐賀までの 間の
 (地名)
 ãdeno tatu kobikio tju: kitiãga ieo bazimenja
 眞の たつ 木挽を 志吉が 家を (つくり)始めね
 ikanmonno hasirawa dekinumono taite soĩde⁽⁹⁾
 いけないものの 柱は できないというので 随分 きわいで
 (のに)
 tanmetima: ãũ dareqtja hi:te kureteãga naike
 さがしたが…… 誰一人 引いてくれる人が 無いので
 oranimo sanben kitane sankai kite hiðowa
 おれにも 三べん 来たね 三回 来て 二度は
 kotowaqte niðowa jarunimo jaren kotomo na-
 ことわって 二度は やれば やれん ことも な
 karo:kendo ija ija sonna riãpana sinasio⁽¹¹⁾
 ころうけれど いや いや そんな 立派な 製品を
 ukeo:te jarisokono: tara ikanken omo:te sumi
 うけあって やりそんじらと いけないからと 思っ
 (言いまし)
 sumĩðake⁽¹²⁾ kuruwasitara ikankenne: sonna mono-
 品だけ はずしたら いけないからね そんな もの
 wa ukeawazaqta tumari sanbenburini mo: ðaremo
 は うけあわなかった 結局 三回目に もう 誰も
 taite tanmeti do:sitati hi:tikurete naĩãga
 随分 さがしたが どうしても ひいてくれる人が いないが
 tasukeru omo:te jaqti kuri ju:te sanbenburi-
 助けると 思っ て やっ て くれと 言っ て 三回
 ni kite sorja sorehõdo hikiten nai monowa
 に 来て それは それほど ひきてが ない ものば
 akõde kusarasu wakenimo ikumaikeni hiku
 あそこで 廣りす わけにも いくまいから ひく
 kotowa hikanja ikumai ma: jakutatanjo: ni
 ことは ひかなきや いくまい まあ 役に立たぬように
 surukenjara sirankendo jaqtjaokane ju:te
 するかも 知らないけれど やってやろうかね と言っ
 (しれない)

se:kara ora: ma: hi:toi ōga o kozjan to nao-
それから おは まあ 一日 オガを 十分 手入

hitjoite se:kara akoe ite hikijoru tjan to
れておいて それから あそこへ 行って、 ひいてると、 ちうど

do:rono mitidjakenne: ano butikara kono
道路の 道だからね あの 櫛から この
(地名)

kamisimosuru hitoŕaga kikakaqtara nanzō
上へ行き下へくだる 人などが 米かかたら なんぞ
何かを

mirōjo:ni tjan to kuroiba: hiton⁰³ takaruba:
見るように ちんと 黒いぐらい 人が たかるぐらい

oran sigotoo sijoru tokorōde ora sotoŕga
おれの 仕事を それから している 外が

ijādjakēn ukeawazaqtaken do ma: anmari tju:ŕga
いやだから うけあわなかったけれど まあ あまり 患が

naiti ma:ruken itjo:kane: ju:te sekara bazi-
泣きついて くるから 行ってみようかね と言って それから 始

mete hondemo: hitotumo heti jarandukuni
めで それでも すこしも わさへ そらさずに

nandjaqta kozjan to hiki hi:tene: arewa bu-
あれだって 思う存分 ひいてね あれは 襪
(言いきし)

tino tarō:ga tateta hi:simo:ta toki tarō:ga
の 太郎が 建てた ひいてしまった とき 太郎が

daikuūjaken daikuwa tarō:n jaqta nakānaka
大工だから 大工は 太郎が やった なかなか

korja riqpani dekitano: ju:ba:ni hitotumo
これは 立派に できたね というぐらいに すこしも

hetimōjarandukunine: kozjan to hi:simo:ta
ひきそんじないでね 思う存分 ひいてしまった

koqtiaqtani ma: sono zibunnja:ne: kobikimo
こだった まあ その 時分にはね 木挽も

taitja hutoikoto aqtaken do sore hiku mono
随分 たくさん あったけれど それを ひく ものは

nakaqtakenne: nandjati dja kobikisitati
なかったからね なんでもだ 木挽しても

daikusitatu nandjati soreba: na ūdeni naruma-
大工をやっても なんでも それぐらいの 腕に なるま

dja: eqkoro urusai kotowa urusai soreba:none:
では かなり 苦しい ことは 苦しい それぐらいのね

ūdeni narumādewane: honmani: kobikidjaken do-
腕に なるまではね ほんちに 木挽だけれど

nakuba:na-meni sanbenba: awanja: songjanja
泣くぐらいの 目に 三べんぐらい あわなき* そんには

naren sono zibunnja: sasimonno⁰⁴ konna o:zasi-
なれない。 その 時分には 指物の こんな 大指

monno hito: tamade ziqtio: dja zju: nitjo: dja
物の 一玉で 十郎だ 十二町だと

ju-waku sanzjakūutiba: no monowa sonna
いう わく 三尺直徑ぐらいの ものは そんな
(このあたりはきりない)

riqpana monoo hiki hikitewa aqtati ukeawaza-
立派な ものを ひき ひき手は あつても うけあわな
(言いきし)

qtaneja: sonna monowa urusai sonna sigotowa
かったね そんな ものは うるさい そんな 仕事は

matuno matuno konna sasimonno hutoi monrawa
松の 松の こんな 指物の 大きい ものなどは

sorja sjo: sjo beti itati do: sitati maqto
それは 少々 わさへ それでも どうしたって もっと

sijoiken do a: ju: monowa honmani sumio hādū-
容易だけれども ああいう ものは ほんちに 墨(筆)を はず

hitara uqta sumio hādū hitara ikanta sitaba: -
したら うった 墨を はずしたら 使いものならぬと したほどの

namondjane: hondemone: arja hikijokaqtaka
ものだね それでね あれは ひきよかつたのか

kire:ni kozjan to hi:simo:ta tarō:ga angja
きれいに 思う存分 ひいてしまった 太郎が あのように

ju:takeN no: korja nakanaka kozjanto deki-
 言ったら なあ これは なかなか たいそう(位前)に でき
 tano: ju:te ju:ba:nja oran hi:tane: soreba:-
 だなあと 言って 言うくらいには おれが ひいたね それくら
 ni nãrõ. ðitja kobiki ju:kẽndo kobikimo
 いに なろうと思えば 木挽と いうけれど 木挽も
 sijoi kota konmai monðjaqtara kozetuketẽdemo
 平のすい ことは 小さい ものだったら どうでもこうでも
 hikukẽdo nakanaka kokõna atarini oran sita-
 ひくけれど なかなか ここの あたりに おれの 下
 wa dakemaqkõ: ðjãrã ju: kiwa mo: ikinasini
 は 断崖だが (そう)いう 木は もう いきなり
 kiqte tukokasujori¹⁰ hokani sijo: naikẽndo
 切って つき落とすより ほかに しょうが ないけれど
 sonna tokowa ma: meqtani nai monðjaken me-
 そんな ところは まあ めったに ない ものだから め
 qtani nai monðjãrã ko:ju: kãrã taqtjoru
 たに ない ものだが こういう 木が 立っている
 dono kãdemõðjane: ko:ju: kãrã taqtjoru to-
 どの 木でもだね こういう 木が 立っている と
 koo ko: jokosini kajahite sorekara riN kake-
 ころを こう 横に 備して それから 台を つくっ
 te kẽðuranja ikanro so:ju: kio kirunja:ne:
 て 削らねば いけなげらう そういう 木を 切るにはね
 kono: taqtjoru kino: taqtjoru kino jamano
 この 立っている 木の 立っている 木の 山の
 hiraniwa kanãrazu kono nẽga hãqtjoruro
 側には かならず この 根が 強っているだろう
 motoni nẽga ko: zu:qto kubaqtjoruro sono
 元に nẽga こう ずーっと 分岐しているだろう その
 neno kubarijo:ni joqtẽðjane ano kio akoni
 根を 分岐のしかたに よってだね あの 木を あそこ

kajaso: omo:tara jamae zugto ho:tjoru neno
 何そうと 思ったら 山へ ずーっと 通っている 根の
 kokoni zu:qto nẽga to:qtjoruken kono kono
 ここに ずーっと 根が 通っているから この この
 neno kono turu¹⁰ korja totemo: tãgireru mon-
 根の この 根(?)に これは とても ちぎれる もの
 dja naiken koitui ukeutio kiqte koitono
 では ないから こいつに 受口を 切って こいつ
 sitamãde kiqtjoite kondõ: õgão ko: sasikõde
 下まで 切っおいて こんど オガを こう さしこんで
 jokobikio¹⁰ kono koreo kiqtara ikanãsajo do:si-
 ヨコビキを この 根を 切ったら いけないうの どうし
 tati sono turuni hikahitjoite koqtjakara
 ても その 根(?)に ひかせておいて こちらから
 jao uqtara kono ukeutio kirijo:ni joqte
 矢を 打ったら この 受口の 切りように よって
 hitai jaro:to omoja ukeutio koqtjai: ma:hi-
 下に やろうと 思えば 受口を こっちに まわし
 tjoku uei jaro:to omoja ukeutio koqtjai
 ておく 上に やろうと 思えば 受口を こっちに
 ma:hitjoite sorekara jao uqte jokobikãrã
 まわしておいて それから 矢を 打って ヨコビキが
 zu:qto kakureruba:naqtara jao simetja: iki
 ずーっと 隠れるぐらになったら 矢を 繕めては いき
 mata hikijoqtja: jao simetja: iki site kono
 また ひいては 矢を 繕めては いき して この
 turũgã:mo: josito omou tokini jawa unto ki:-
 根(?)が もう よしと 思う ときに 矢は うんと 利い
 te ikijoqte kiwa ziri ziri ziri: kãjaqti-
 て いていて 木は じり じり 倒れて
 ikijorukẽn soreðe kono turũde hikahitara
 いてるから それで この 根(?)で ひかしたら

mo: omou tokoe ika: omou tokoé boqtiri
もう 思う ところへ 行くき 思う ところへ ちょうど

so:~ga ma: zitúdjane: ki: kirunja: horekara
それが まあ 倒だね 木を 切るには それから

sono: ko: naqtjoru tokoróde unto naga naga-
その こう なっている ところで うんと なが 流
(ぬいさし)

hite kajahite kamawanto ju: jokosini: senti
して 倒して かまわないと いう 根に しろくても

nagarete kajaqte kamanto ju: kiwa kono tu-
流れて 倒れて かまわぬと いう 木は この 根

rui hikahitjoitara murin ikandukuni ziqto
に ひかしておいたら 無理が いかずに じっと

kajarijoikedone: do: sitemo kono kiwa joko-
倒れよいかねどね どうしても この 木は 横

sini senja ikanto omo: tara kono nakano tu-
に しなけれは いけないと 思ったら この 中の 根

rúde hikahite jaruto ju: ma: so:~ga ma: ki:
で ひかして やると いう まあ それが まあ 木を

kiru zituwa sokódjane: so:~dejaqtarame: kono
切る 薪は そこだね それだったらね この

turuno hikijo: ni joqte djo: buna turúdjagtara
根の ひきように よって 丈夫な 根だったら

so:~ria omou tokoi kajarum: mo: giqtiri
それは 思う ところに 倒れる もう びったり

so: site sono kinone: ki:~ga kajaqte jokosini
そうして その 木のお 木が 倒れて 根に

ki:~ga kajaqte kokoni kono asagi:~ga taqtjoruga-
木が 倒れて ここに この 雑木が 立っているの

djane: asagi:~ga taqtjoru soituno utihirai
だね 雑木が 立っている そいつの 内側に

kajaqtato so:~ohirai:~²⁰ kajaqtato sorja hutoi
倒れたのと 外側に 倒れたのと それは 大きい

nininjakumo tijauba: sono rin kakeruni ja-
二人役も 違うくらい その 台を つくるのに 手

ku:~ga kakara: sono ki: sono kio aiteni hite
間が かかるさ その 木 その 木を 相手に して

sono taqtjoru kio aiteni site rino sasite
木の 立っている 木を 相手に して 台を つくって

mata tuitara dikini dekiru monóga kono ta-
また 枝を落したら すくに できる ものが この 立

qtjoru kijorika so:~ohirai kajaqtara naqtja:
っている 木より 外側に 倒れたら 何も

nai tokoródjagtara rino kunde tja:~nto jaq-
無い ところだったら 台を 組んで きちんと や

tjokana ikanro sono omowakumo unto aru mon-
ておかなければ いけないだろう その 思案も うんと 有る もん

jo sorja kino kajarijo: wa hutoi ki:~djagtara
よ それは 木の 倒れようは 大きい 木だったら

kino kajarijo: ni joqtja mo: nininjakumo
木の 倒れ具合に よっては もう 二人役も

tijauba: sono jakúga kakarukenne: mo: ki:
ちがうくらい その 手間が かかるからね もう 木を

kiruwa so:~ga zitujo
切るは それが 薪よ

orara:~nne taisjo:~sonni oqte taisjo:~sonno
わしらがね 大正村に 居て 大正村の
(地名)

tanonóga tju:~sinde tanonono temura ju: toko-
田野々が 中心で 田野々の 田村と いう とこ
(地名)

ga jadódjagta sokokara zu:~qto kajo:~te tuno-
らが 倒れた そこから ずーっと 通って 津野
(地名)

jamae iku tunojamae ikunja: tanonokara kami:
山へ 行く 津野山へ 行くには 田野々から 上へ

ite o:~naro ju: toqkara zu:~qto sakao agariha-
行って 大乗路と いう ところから ずーっと 坂を あがりは
(地名)

zimete sorekara to:māde āgaqtara matubara
 じめて それから 峠まで あがったら 松原
 (地名)
 tunojamano matubara ju: tokoi no zaisjoi
 津野山の 松原と いう ところの、の 左所に
 (言いまわい)
 oriru jatate ju: nandjane arja jatatesanrino
 おりる 矢立と いう なんだね あれは 矢立三里の
 sakādja sanrino sakāo niriba: no ādawa da-
 坂だ 三里の 坂を 二里くらの 間は だ
 rari darari darari darari sorekara to:māde
 りり だりり だりり だりり それから 峠まで
 āgaqtara gaqkuri orira: waera: mukasino
 あがったら がっくり おりるさ。 お前たちは 昔の
 jatate jatatetu: monoo sirumai jatatetumono-
 矢立 矢立という ものを 知るまい 矢立というもの
 wane- konmai kono kono konmai kohūde ireru-
 はね 小さい この この 小さい 小籠を 入れる
 ba: no taqpođjane:
 ぐらいの 筒だね。
 kāneno sorekara soitoi: hūdeo sasikonde:
 金の それから そいつへ 壘を さしこんで
 sorekara sokoni tubon arūgādja sono jata
 それから そこに さきが あるのだ その やた
 (矢立と言つ
 sono koitono sakini kono ma:riba: no sumio
 その こいつの 先に この まわりぐらいの 壘を
 もりであらう)
 iqta tuboga aru soitoi huta soitoi hutao
 入れた 壘が ある そいつに 壘 そいつに 壘を
 (このあたり隣に壘がある)
 tjoito hutao aketara hutao tjoito site hi-
 ちよいと 壘を 明けたら 壘を ちよいと して し
 tara kono kokoi sahitjaru hūdemo den sono
 たら この ここに ざしてある 壘も 出ない その
 omoimo konmai kono ma:riba: none: soituo ma:
 オモイも 小さい この 周りぐらいのね そいつを まあ

tjoit tjoit ko ko ko: jamāde tjo tjo:qto ma:-
 ちよい ちよい こ と どう ひもで ちよ ちよ→と まわ
 (言いよどみ) (言いざし)
 hitjoite sorōde kosi: sasitara mo: sorōga
 しておいて それで 壘に さしたら もう それが
 jatate soitto ju: ta mondjane sono eo zu:qto
 矢立 そいつを 言った もんだね その 柄を ず→と
 noboqte ite gakuri muko: e oritjoru soro
 登って 行って がくりと 向うへ 降りている それを
 jatate jatatesanrino saka imara areo to:ri-
 矢立 矢立三里の 坂 今は あれを 通って
 jorantukendone: imara: sono: jusuwarakara
 ないというけれどね 今は その 脚車から
 (地名)
 deta simantokai detjoru ka: no hutio do:ro
 出た 四万十月に 出ている 川の ふちを 道路が
 (地名)
 nukete areo basun ima kajoutukenne: ano
 抜けて あれを バスが 今 通うということだからね あの
 jatatenno to:rawa ima hitowa to:ru mon nai-
 矢立の 峠は 今 人は 通る ものは いない
 zone: mukasiwa so:ju:jona tokowa itsnne:
 よね 昔は そういうような ところは 行ったものだがね。
 sonna ziqtimo orara hundjorukendo sonna
 そんな そんなな おれらは ぶんでいるけれど そんな
 hanasio ima hiteno kotomo naiwa
 話を 今 しての ことも ないさ。

2. 漁師の思い出話

録音日時 1967年7月8日

録音場所 山本家(大方町田の前)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

H 浜田数義 男 明治43年生 教員 樺多郎大方町田の前→高知市1年7か月
→佐川町3年→函川町3年以後田の前

Y 山本万助 男 23年生 漁業 大方町田の前→大月町5年→善通寺3年
以後田の前

解説: 方言研究家が難しい漁師に大しけ、地盤、出賃船。「しき」の休日などについて回想的に語らせている。

H sorēde ko:to: sundekara dokoi do: sitagōdjaq-
それで 高等(科)が すんでから どこに どうしたんだ

taze ko:to:dja nai zinzjo: sundekara
たの 高等(科) ない 尋常(科) すんでから

Y zinzjo: sundekara onda: onra: nanijojo diki-
尋常 すんでから おれは おれは あれだ すく

ni: ano: utīde itinenka ninenka utino rjo:-
に あの うちで 一年か 二年か うちの 誰

si sijoqteneja (H ū:) sorekara sono zibun-
師を しててな それから その 時分

nja minajo ma: onra: datekara⁽¹⁾ ueno monowa
には 皆よ まあ おれぐらいの年齢好から 上の 者は

minato ju:ba: djaqtane: utīdja: zenin toren-
皆と いうぐらいだったね うちでは ぜにが 取れない

kenneja pōnto⁽²⁾ hanama⁽³⁾ (H ū:) ano: katuobune-
からだな 全部 鼻前⁽³⁾ あのう かつお舟

no īdetori ikumona īdetori iku sekara sango-
の えき取りに 行くものは えき取りに 行く それから 珊瑚

zjumo ikumona sangozjuni iku katoni ikumona
珠も (取りに)行く者は 珊瑚珠(取りに) 行く 漁(漁)に 行く者は

katoni ikuneja (H ū:) taitē: ita warēgūno
漁(漁)に 行くさ たいてい 行った お前のうちの

aijoran komai tokiwaneja
兄らが 小さい ときはさ

H sangozjuni ni:tajo:nano: sono zibun sangozju
珊瑚珠に 似たよなうの その 時分 珊瑚珠は

unto toretakae
うんと 取れたかい

Y toreta toreta toretakendoneja dō:de hunea:
取れた 取れた 取れたけれどなあ どうせ 舟は

kozai tunōdemo hjaqpai⁽⁴⁾ aqtakenneja
小才角でも 百艘 あったからなあ
(地名)

H sangozjubunōgaja (Y ū:) kozaitunōdakēde
珊瑚珠舟がね 小才角だけども

Y hunea (H ū:) sangozjuni juku hunemo aru
舟は 珊瑚珠(取り)に 行く 舟も ある

komai hunemo aqta hjaqpsai aqtaneja (H ū:)
小さい 舟も あった 百艘 あったなあ

sorēga: nandjaqtazo itinenneja jonhju⁽⁵⁾ nanne-
それが あれだったよ 一年だな 四十 何年

ndjaqtakaneja ano: osikeno ninaneja (H ū:)
だったかなあ あのう 大しきの 日にはなあ

sono hunea o:kataneja tukau eru hunea iqpaimo
その 舟は 大方 使う える 舟は 一艘も

nai ju:ba: itamu ito:dojo (H nandeja) sike-
無いと いうぐらい いたむ いたんだよ (H nandeja) sike-
(意味つづく、言いなおし) (意味つづく、言いなおし) だけ

nineja (H ū:) utira: no hitora: ga mo: unto
のためさ うちなんかの 人たちが もう うんと

sinda-(djako)⁽⁶⁾ kametaōdi: neja imano jatāguno
死んだじやないか 鹿太おじだな 今の 芥太のうちの

ojādīdja ju:teneja
おやじだと 言っただな

H jonin sinda ju:te ju:tanowa sono tokikae
四人 死んだと 言って 言ったのは その 時かえ

Y ū: sono tokīdja
んー その 時だ

H utirādakejēno:
うちらだけでなあ

Y sorekaraneja kainoka:no seineNra:neja (H ū)
それからだな 貝の川の 青年らがだな
(地名)

naNnja:qtojo sono sangozjutori wakaisjūga
あれだったな その 珊瑚採取(に) 若い衆が

torīāgeni iteneja (H ū:) minatoe hamaqtjoq-
取りあげに 行ってだな 港に はいって

teneja (H ū:) ano: namiāga huto: naqte hune-
だな あのう 波が 大きく なって 舟

ga ūti: hikenkeni ti:ro ju: minatoeneja (H
が 中に ひけないから 千尋と いう 港へだな
(地名)

ū:) ma:sijōqte sono huneo kozaitunōde ano:
懸していて その 舟を 小才角で あのう

H kainoka:no hune
貝の川の 舟

Y kainoka:no hune sanninno:riāga oki muite nāga-
貝の川の 舟(で) 三人乗りが 沖に 向いて 流れ

rejoqtāgajo horja mōdorandukujojo (H ū:)
れていたのよ ほら もどらずじまいよ

minatoe hamaqtjoqteneja
港へ はいってだな

H hamaqtjoqtekara
はいって

Y uti: hunēga ikenkeni tihiro ju: tokono mina-
内部へ 舟が 行けないから 千尋と いう ところの 港

tōga e: minatōdeneja kokokara hōno miejō-
が よい 港でだな ここから ほんの 見えてい

ru tokorōjakeNneja (H ū:) sju:qto itara
る ところだからなあ さっと 行ったら

e: tokoro⁽⁷⁾ hokoi iko: omo:ite ita sokoe jo:
よい ところを そこに 行こうと 思って 行った (が)そこへ 行かれ

ikaN jamūjita ju: are jamakara ko: hukiāsu
ない 山北と いう あれ 山から こう 吹きだす

kazeni oki muite nāgasare simo:ta⁽⁸⁾
風に 沖 向いて 流されて しまった

H ū: mōdoranduku
んー もどらないで

Y mōdoranduku
もどらないで

H seineN sannin
青年 三人

Y rokuniN
六人

H rokuningae
六人がね

Y nihaīdjaqtakeNneja
二艘だったからなあ

H ū: sannindutūde nihaitomo nāgarete simo:ta
んー 三人ずつで 二艘とも 流れて しまった

Y nāgarete simo:ta
流れて しまった

H atono disinjono: oki: oqta ano tokini
後の 地獄よねえ 沖に 居たの あの ときに

Y ano tokini: sono: tateisino oki: orimasitani-
あの ときに そのう 立石の 沖に 居りましたに
(地名)

no: hunei nejoqtāga soremo-
ね 舟に 覆っていたが それも

H hunedē nejoqta ū:
舟で 疲ていた んー

Y soremāde koamitate horja amitateni itjoqte
それまで 小艇立て ぼら 胡たてに 行っていて

(H ū:) amēga boroboro siteno (H ū:). āgero:
雨が ぼろぼろ して あげようと

omote mōdoro: omote amēga boroboro sita
思て もどろうと 思て 雨が ぼろぼろ した

a: mo: hitokuti nejo ju:te neta tokorōga
ああ もう ちよと 登ようと 言て 寝た ところが

(H ū:) sorekara sono tokini toqtara ondara
それから その ときに 取ったら おれたち

do:jara wakaran gādjaqtaneja (H ū:) sorekara:
どうやら わからんのだったなあ それから

toqtene: ano: nejoqte hitokuti okite toqtā-
取ってねえ あのう 疲ていて ちよと 起きて 取った

gādja: (H ū:) disinwa djaqtamonjo bokano
のだ 地獄は だったもんよ ほかの
(発音はつきりしない) (意味つづ)

jama: guzāguza guzāguza kueru ano: umiwa
山は ぐざぐざ ぐざぐざ ぐずれる あのう 海は

ko: ue sita ue sitaneja hunēganeja hōnmani
こう 上 下 上 下 舟がだな ほんとに

iqsjakuba: moti āgaqtari oritari sitaneja
一尺ぐらい もちあがったり おりたり したかあ

(H ū:) sorēga ano: sono tokino tunamino
それが あのう その ときの 津波の

omōdja sorekara susakino okīga pa:pa:to ni-
中心だ それから 須崎の 神が パーパと 二

sanben akaqtanneja
三べん 明るくなつたなあ

H ū: susakino okīgaja
んー 須崎の 神がな

Y ū: (H ū:) ano nādani orunineja ara susaki
んー あの 器に 居るのにだな あれ 須崎に

o:kena gunkanga kitjoruneja i:joqta ga sorē-
大きな 軍艦が 来ているなあと 言っていたが それ

ga omōdjaqta sorēga hazimēdjaqta (H ū:)
が 中心だった それが 始めだった

itiban sono nisiwakinoneja
一番 その 西脇の(山)のだな

H disinwa sirandukujono:
地獄は 知らないでいたのだね

Y sorekara nandja:qtazo āgete montajo monta
それから あれだったよ (網をひき)あげて もどったよ もどった

tokorō:ga sorekara jōga aketēno: okakarano
ところが それから 夜が 明けてなあ 陸上からの

hitorā:ga kowaizo kowaizo kowaizo ju:te
人たちが こわいぞ こわいぞ こわいぞど! 言て

sjakerijoru
叫んでいる

H kowaizo ju:te
こわいぞと 言て

Y kowaizo ju:te
こわいぞと 言て

H nādano hitora:gano
器の 人たちがね

Y ū: nādano kowaizo ju:te sjakerijorukenne:
んー 器の(人が) こわいぞと 言て 叫んでいるからな

o: orite mōdorijoqta tokorō:ga siomino si-
お おりて もどっていた ところが 潮干の 潮
(言いさし) (このあたりすしつじまが)

no tataegani ano: haino aida hune to:ru
の 湧ちたときに あのう 岩礁の 間(に) 舟の 通る
(合め)

to:ru tokorōga arūganeja sokōga karani
通る ところが あるのだが そこが 川原に

naqtjorutu: kotodeneja orijo korja do:ju: (9)
 なつてゐるという ことではな あれ これは どういう

kotojjaroneja onda: soremade sonna kota
 ことだろうなあ おれは それまで そんなことは

sirazaqta nne: (H ū:) do:ju: koqtjaroneja
 知らなかったわえ どういう ことだろうなあ

korja warja to:renro:ka sorekara oki ma:qte
 これは わしは 連れないだろうか それから 沖を 廻って

monte simodano oki itara honno simodani so-
 もどって 下田の 沖(に) 行つたら ほんに 下田に そ
 (地名) (地名)

no hamaru miduganeja (H ū:) onna toko unto
 の はいる 水がだな あんな ところば うんと

hamarukeneja go:go: i: joru o: rjo korja ko-
 はいるからだな ゴーゴーと 音をたてている あれ これは こ

waizo kowaizo ju:te (H ū:) oki ma:qte mon-
 わいぞ こわいぞと いって 沖に 廻って もどつ

te se:kara ijano oki montara joga aketa
 て それから 伊原の 沖に もどつたら 夜が 明け

(H ū:) tokoro:ga ponto sono nanijo kiribosi
 ところが 全部 その あれだ 切干の

kiqtja:rugao tundanasideneja (H ū:) okie
 切つてあるのを 積んだままだな 沖へ

nagarejoru ju:tuwa nanboguramo sorekara
 流れていると いうことだ 何くらも それから
 (発音不明)

utino oki: monta tokoro:ga sono nanidja:to
 うちの 沖に もどつた ところが その あれだつた

sitorino monganeja hagirijara nanikaja ta-
 潮取りの 君がだな はぎりやら 方にかや た

nsudja: nandja: tansuwa kokono
 んすだの 何だの たんすは この

H jamasanno
 やまさんの

Y jamasanno gadjaqta mondja (H ū:) hagirijara
 やまさんの のだつた もんだ はぎりやら

nanija honno tukani naqte nagarejorukeneja
 なにやが ほんにに 擦り なつて 流れているからだな

(H ū:) sorekara onda: hagirio nandja:qto: e:
 それから おれは はぎりを あれだつた よい

hagirio miqtu hiro:te kite toqte agetja:qta
 はぎりを 三つ 拾つて 来て 取つて あげてあつた(が)

sore dokono gadjaqta torareta sorekara ko-
 それは どのの のだつたか 取られた それから こ

kodja nai imano tojodino josimakuno maeni-
 こで ない 今の 壘おじの(息子の) 芳馬のうちの 前に

neja (H ū:) koami orositanneja (H ū:) nan-
 だな 小唄を おろしたんだな あれ

dja:qtojo kono ondaga monta hunja: ponto
 だつたよ この おれが もどつた 舟は 全部

nagare simo:te oki: oranken (H ū:) okae
 流れて しまつて 沖に いないか 陸へ

joru ga: joruneja (H ū:) ondara: monta hune-
 寄港するのは 寄港するなあ おれたちが もどつた 舟

wa ami orositjoite sono hune mina hirai
 は 網を おろしておいて その 舟を みな 拾いに

itojo
 行つたよ

H a: okini nagaretagao (笑声) so:kae so: boita-
 あー 沖に 流れたのを そうかえ そう そした

ra kosanra hune iqpa:tdjaqta mo: tanourade
 ら あなたたちの 舟は 一體だつた? もう 田の瀬で

Y nihaidjaqtajo sono koamigabuneganeja nihaidja-
 二艘だつたよ その 小唄舟がだな 二艘だ

qtajo
 つたよ

H kosaN huneto dare
あなたの 舟と 誰

Y ano: oran aijora-toneja onda:rato nihaiddjaqta
あのう おれの 兄貴たちとだな おれたちと 二艘だった

H ū: ju:te^節 jonetjan kano (Y ū:) mo: tanourāde
んー まあ 来ちえんかね もう 田の畦で

nāgarere simo:te sono nihaisiku
流れて しまつて その 二艘しか

Y ponto nāgare simo:tjoqta (H ū:) joruga:
みんな 流れて しまつていた 寄港するのは

joruneja (H ū:)
寄港するなあ

H sorāde zenbu hiro:te kuru kota hiro:te ki-
それで 全部 拾つて 来る ことは 拾つて 来

takae
たかね

Y hiro:temo kuruneja (H ū:) hokano hunja ku-
拾つても 来るさ ほかの 舟は く

ḍaketa huemo aqtakendoneja
だけた 舟も あつたけれどな

H hune: sono tokini: sono o:namīga kite utira:
舟 その ときに その 大波が 来て うちなど

jamasaNo iēga nāgareta tokijono: (Y ū:) sore-
やまさんの 家が 流れた ときよねえ それ

kara kokono maeni ano: zjakōjōjāga aqtāga nakama-
から このの 前に あのう じこ小屋が あつたが 仲間

no arera:mo zenbu nāgarere simo:ta tokijono:
の あれなども 全部 流れて しまつた ときよねえ

Y nāgareta
流れた

H sono tokini hitowa itamja seraqtakano:
その ときに 人は 損傷は なかつたかねえ

Y ū: hitowa jamasaNo baḡga sindabū:ḡjaneja
んー 人は やまさんの 妻が 死んだくらいだな

H jamasaNo oba:sanwa arja sindjoqte jotōḡisijoqte
やまさんの お婆さんは あれは 死んでいて お酒夜をしていて

nāgaretagāja nakaqtakae arēde sindakae (聲音)
流れたのじえ なかつたかね あれで 死んだかね

Y jotōḡisijoqteja nakaqturo arja: daitaiwa jo: ḡ-
お酒夜をしていては なかつただらう あれは 大体は 動け

ḡokanjo:ni naqte warikaqtāḡāḡjaqtakenno: jo: ḡḡo-
なく なつて なつたのだからねえ 動け

kanjo:ni naqte nāgarere sindāḡāḡjano
なく なつて 流れて 死んだのだ

H a so:kae
あ そうかい

Y utiāḡetjioqtāḡāḡjano
うち上げていたのだ

H ū: so:kae ū: dēḡaiwa omoni donna: koto sitaze
んー そうかい んー 出賃は おもに どんな ことを したの

Y dēḡaiwaneja (聲音) kokowa hitotumo nai tokḡḡjaqtā-
出賃はだな ことは 少しも 無い ときだった

ḡa hamāḡjaqtakenneja (H ē:) zu:qto koqkaraneja
が 浜だったからなあ ずうっと ことからだな

(H ē:) nandja:qto dēḡaiwa ima iwasio kūḡatukara-
あれだった 出賃は 今 いわしを 九月から

neja (H ū:) seqkiqpaiwa taite iwasi kaini ita
だな 大晦日いっぱい たいてい いわしを 買いに 行った

urumeoneja
うるめをだな

H dokoie
どこへ

Y ijokaraneja (H ū:) hjū:ḡaneja (H ū:) omo ijo hjū:-
伊予からだな 日向を おもに 伊予 日向

ḡāḡjaqtaneja (H ū:) onda: naninimo itajo genkaini-
だったな おれは 玄海にも 行ったよ 玄海に

moneja (H ē:) genkainādanimo ito:jo
もだな 玄海灘にも 行ったよ

H iwasi kainija (Y ū:) ū: genkaināda hukuokano
いわしを 買いにか んー 玄海灘(と言えば) 福岡の

atarikano
あたりかな

Y o: hukuokano tjocto temaeno iwaja ju: tokō-
おう 福岡の ちよと 手前の 岩屋と いう とこ
(地名)

na omōdjaqtaneja
るが おもだったな

H ū: hoitara tusima atarimo itakano aqtiwa
んー そしたら 対馬 あたりも 行ったかね あもは

Y aqtiwa ikan
あちは 行かない

H ū: hoitara juwajāga ma:
んー そしたら 岩屋が まあ

Y juwajamadēdjaqta juwaja ju: tokōdjaqtaneja
岩屋までだった 岩屋と いう ところだったな

(H ū:) akowa sono tokinja kisjāga kijoqtan-
あそこは その ときには 汽車が 来ていた

neja (H ū:) ano itibanwaneja (H ū:) ninaigā
なあ (H ū:) あの 一番はだな 担いの渡商人が

kō: teneja (H ū:) nibanwa kisjāga ko: te (H
買ってだな 二番は 汽車(で渡商人)が 買って

ū:) sanbanwa sono daitāga sono itiban han-
三番は その 大体が その 一番 半

neba: ni naru tokidjāqtaneja (H ū:) minnāno
値くらいに なる ときだったな みんなの

tuboe nanisitara o: kena hōmsirae tūndarineja
壱へ あれしたら 大きな 帆船船へ 船んだりだな

(H ū:) ondarā tumu hunewa ma: nisenganba:
おれたちの 積む 舟は まあ 二千貫くらい

tumu hūnēdjaqtaneja
積む 船だったなあ

H dēgāigaja (Y ū:) nisengan tumetaka are so-
出賃舟がな 二千貫 積めたか あれ そ

re: namao kaugajono:
れ 生(の魚)を 買うのよなあ

Y namao ko: te
生を 買って

H ko: te sorekara do:
買って それから どう

Y sio hiteneja
塩 してだな

H ū: taru moqti ite
んー 梅 持って 行って

Y tarūdja: ikanken ināgara kankeo sio irete
梅では いけないから そのまま (湖船の) 生糞へ 塩を 入れて

toqte monte
取って もどって

H ho: kankeo sonomamano (Y ū:) utimāde toqte
ほう 生糞へ そのままの うちまで 取って

montakae
もどったかい

Y ū: uti: toqte monte sono tokinineja (H ū:)
んー うちに 取って もどって その ときだな

iqpaiḍe nanbu mo: ketato ju: tara sanninde
一般で いくら 儲けたかと 言ったら 三人で

noqte ite joqtariwakēdjaqtakenneja gozju: en
乗って 行って 四人分けたからだな 五十円

aqtakenneja hitoko: kainineja
あったから 一般海にだな

H soitara nihjakuen mo: ketajaika
そしたら 二百円 儲けたじゃないか

Y u: nihjakuen
んー 二百円

H hunewa (hoitara) hitoribunni naru ū:
舟は (そしたら) 一人分になる んー

Y sono tokini: no: gozju: en ju: taraneja rokuen-
その とき 五十円と 言ったらだな 六円

djaqtakenneja hīga ondarā:ga hijo:ni kakaru
だったからな 日が おれたちが 日備に かかる

tokinja:neja
ときにはだな

H hīga tukīdjarōgae
日が? 月だらうな

Y tukīga tukīga rōkuenjo niziqsēndjaqtaken
月が 月が 六円よ 二十銭だったから

H hīga
日が

Y hīga (H ū:)
日が

H tukino hijo:ga rōkuende ū: honnara a: jatu-
月の 日備が 六円で ū: そしたら a: 八

kibunjono: hitoko:kai:de hitoko:kai: nanniti-
月分よなあ 一航海で 一航海 何日く

ba: kakaqtaze
らい かかったの

Y ano: sio: gatuno: zju: hatiniti sunde iteneja
あのう 正月の 十八日 すんで 行ってだな

(H ū:) nigatuno soko ita tokinja nigatuno
二月の そこへ 行った ときには 二月の

naka:goroni montaneja
中根に もどったさ

H ū: juwajae ita tokinja
ん一 岩屋へ 行った ときには

Y hitotukiba: kakaqtano:
一月くらい かかってなあ

H hitotukiba: kakaqtano:
一月くらい かかってなあ

Y songjani mo:keru tokimo arukendoneja (H ū:)
そのように 儲ける ときも あるけれどだな

ano: hju: gano simanoura ju: tokōde tunda
あのう 日向の 島の浦と いう ところで 預んだ
(地名)

tokinja:neja (H ū:) kūgatuno maturīdjaqta
ときにはだな 九月の 祭りだった

kūgatuno zju: gonitimaēdjatāga ko: tja: sjanō
九月の 十五日だったが 高知は 残念にも

jasu: n naqtano: (H ū:) ko: ti tunde kurūga
安く なってなあ 高知へ 預んで 来るのを

sonō ga ho hosi: jaqta (H ū:) mo: ikanken
その ものを は 差しに やった (H ū:) もう いけないから
(このあたり発音不明瞭)(言いさし)

korja hirosimae iko:zeja jute hirosimae
これは 広島へ 行こうよと 言って 広島へ

itāga hirosimādjap: nandja:qtazejo hjakuenba:
行ったが 広島では あれだったよ 百円くらい

songa ita kotomo arukenneja (H ū:) sorekara
損を した ことも あるからなあ それから

mata mōdorisinani uti mōdorandukuni zu: to
また もどる途中で うちに もどらずに ずうと

ijōde ko: te kondo. sono ga ko: ti moteita
伊予で 買って 今度 その ものを 高知へ 持っていった

sorēde sono son toqte (H ū:) torikaesita
それで その 損を 取りかえては 取りかえた

kotomo. aru sondjaken sjo: baiwa ju: tati ika-
ことも ある それだから 販売は 言っても 駄

na: ja (H ū:) sonno iku tokimo arukenneja
目だよ ときも あるからなあ

H sū: djano: gozju: en mo: ketemo son suru kotomo
そうだなあ 五十円 儲けても 損をする ときも

aru sono totū: de sikeni o: tari suru koto
ある その 途中で しけに あったり する ことは

nakaqtakae de gaibunemo sono: kikaibunedia
知かったかお 出資船も そのう 機械船では

naike: unto kiken^{na} meni o:tu^ogae
ないから うんと 危険な 目に あっただろう

Y u: taigaineja hijori miteneja ano: e: mina-
ん 大概だな 日和を 見てだな あのお よい 港

toe hameruken^{neja} (H u:) nanijojo hijori^{ga}
へ 入れるからな あれだ 日和が

suwaranja: dete ikanken^{no}: a sono zibun^{nja}-
固まらなければ 出て 行かないからなあ その 時分には

ne: (H u:) sondjaken^{ne} heqsani kakaqta^{ga}djaken^{ne}
ねえ それだから 久しく かかったのだから

wari: hijorinja:-----
悪い 日和には

H a: kju:sju:made: ikuni hitotuki kakaru ju:ga
ああ 九州まで 行くのに 一月 かかると いうが

sonna koto aruke: maqsugu iketara sonnani
そんな ことが あるかい まっすぐ 行けたら そんなに

hitotukimo-----
一月も -----

Y kowai omo:tarano: hajo: minato toruken^{no}:
こわいと 思ったらなあ 早く 港へ 入るからなあ

doko dokoi itara e: minato arutu: kotoga
どこ どこに 行ったら よい 港が あるという ことが

wakaqtjoruken^{no}: (H u:) sorekara kono sore-
わかってるからなあ それから この それ

de atira ju:tarano: tj^o:do kono ijoe hamaq-
で あちらと 言ったらなあ ちうど この 伊予へ 入

tara nani^diano: to^sawa sonna koto naikendo
たら あれだな 土佐は そんな ことは ないけれど

ijoe hamaqtara sono kaig^{an}wano: kaigaⁿno
伊予へ はいったら その 海岸はなあ 海岸の

sioga nanijono: si kono o:kena ka: no se:gurai
潮が あれだね この 大きな 川の 潮ぐらい

ikuken^{no}: si sono mitcino sioga^{no}: si (H u:)
流れるからねえ その 満干の 潮がねえ

sonde sioni hikasuken^{no}: taigai sono siodja-
それで 潮に ひかすからなあ たいがい その 潮だ

qtara doko^{zo}ni ikuto ju: kotoga kazega sjo:-
ったら どこかに 行くと いう ことが 風が 少

sjo: wari: temoneⁿⁱ (H u:) jaruken^{neja} (H u:)
々 悪くてねえ その 舟を出すからなあ

sio kuqte sondja:keni siono wari: tokinja:
潮を 計算して それだから 潮の 悪い ときには

nanijo kazega jo: nakerjanja kazega wari:
あれだ 風が よくなければ 風が 悪いと

ju: tara nanijo sio kuqte jaruken sono zika-
言ったら あれだ 潮を 計算して 出すから その 時間

ndeneja imakara kono siodjaqtara kondono
でだな 今から この 潮だったら 今度の

siowa dokomade ikerukendo sjo: sjo: wa ano
潮は どこまで 行けるけれど 少々は あの

kazega wari: temo jaruken jaro: kanejatujo:-
風が 悪くても 出せるから 出そうかなあというよう

ni jaqpari sio kuqte jaqtaken^{neja}
に やっぱり 潮を 計算して やったからなあ

H sonnani sio hikijorukajo akowaⁿⁱ
そんなに 潮が ひいているかね あそこは

Y hikijoru (H e:) kowaizo go:go: go:go
ひいてる こわいぞ ゴーゴ ーゴ

H sonnara sono sioga gjakuno tokinja: nakanaka
そんなら その 潮が 逆の ときには なかなか

hunja ikana: no:
舟は 進まないなあ

Y ikan^{neja}
進まないからなあ

H ũ: hondara sioni norujo:ni ikisimōdori
んー そしたら 湖に 乗るように 行き帰りを

kangaete zikan kangaete jarūnjonō: <Y'a: so:
考えて 時間を 考えて やるのよねえ 意志 そう>

ũ: kizitujono. mukasiwa' asakara jasumid'jaq-
んー 式日よなあ 昔は 明から 休みだっ

turoe
たろえ

Y mukasija' jasundaneja ano: mukasikara ima
昔は 休んだなあ あのうち 昔から 今は

joke jasuman'kendoneja (H'ẽ:) mukasinia' ro-
あまり 休まないけれどなあ 昔は 六

kugatuhi:toito
月一日と

H rokūgatuhitoiwa do: ju:te jasundaze
六月一日は どう いて 休んだぜ

Y seqkūdja ju:te jasundaneja korja ano rokū-
節句だと 言って 休んだなあ これは あの 六

gatuwa
月は

H nanno seqku ju:te
何の 節句と 言って

Y seqku ju:te ju:kendo orara: koziwa wakaran-
節句と 言って 言うけれど おれたちは 故事は わからない

kendo nandjaneja jaqpari rokūgatuni naqtara
けれど あれだな やっぱり 六月に なったら

(jasumitaiken jasundaro:) mo: (笑声) (sjo:ga-
〔休みたいから 休んだらう) もう (正月

(女の声速くから)
tuga sorekoso iqsju:kanba: mukasi aqtatndja-
が それこそ 一週間くらい 昔 あったというじ

ika) rokūgatu rokūgatuno tukinja miqkaba:
ないか) 六月 六月の 月には 三日くらい

jasumiga aqtakenno zju:hatinini zju:gonitiwa
休みが あったからね 十八日 十五日は

H zju:hatinititone: ũ:
十八日とねえ んー

Y sitigatuni naqtara ndoneja tanabatasahto
七月に なったら 二度だな 七夕さんと

bonōde bonwa miqka jasunde (H'ũ:) onda: no
盆とで 盆は 三日 休んで おれたちの

tokinja miqka'djaqta sono maenja iqsju:kanmo
ときには 三日だった その 前には 一週間も

jasundari suru kotomo arukendoneja (H'ũ:)
休みだり する ことも あるけれどなあ

H sono:: ma: jo: jasumiga aqtuga naniju' son-
そのう まあ よく 休みが あったが 何かい そんな

na tokubetuni kimaqta sikisikino jasumi
な 特別に きまった 式日式の 休み

ĩrainimo amāgoĩdja: nandja: ju:te unto jasu-
以外にも 用ごいだ なんだと 言って うんと 休み

miga arja: sezaqtakae mukasija
が ありは しなかったかね 昔は

Y aqtojo mukasianeja
あったよ 昔はだな

H bjo:kino hajaqta tokinimo sonna kotoga arja-
病気の はやった ときにも そんな ことが あり

sezaqtakae
はしなかったかえ

Y bjo:kino
病気の

H sekirĩdosi ju: ga: siqtjorukae
赤帽年と いう のを 知っているかね

Y ū:a siqtjoru
んあ 知っている

H sono sekiri dosinja: nanika tokubetuni jasu-
その 赤痢年には 何か 特別に 休

Nda koto naikae
んだ ことは ないかえ

Y tiqtomo siran nainika:ran
少しも 知らない どうもないらしい

H utirā:ja mukasi ano: bjo:kini naqta tokini
うちなんかでは 昔 あのう 病気に なった ときに

gokito: jaqtono:
御祈禱を やったよ。

注

1. 木 換 開 談

- [1] [p. 5] ku ところ, うち, 家. よさこい節に「いうたちいかんちやおらんくの裡にゃ～」がある。
- [2] [p. 5] 宮公地, つまりここでは, 国有林。
- [3] [p. 5] hata は共通語だからそのまま直訳したが, 私風によれば, ほんのわずかが, 方言的なにおいがあるようにも感ずる。
- [4] [p. 6] toqti kitjoru と切り離す。(訂正)共通語の「て」「で」に当たるところに /i/ /i/ があらわれる。この現象は大方可でも, 万行(まんぎょう)・殿(ぶち) (殿密には「浮殿」)・加持(かもち)・瀬川(みなとがわ)などの部落に限られており, それも主として老年層の間に見られる。
- [5] [p. 6] [k] が脱落している。
- [6] [p. 6] ōgo のこぎりの大きいもの。
- [7] [p. 6] hira 方, 朝。
- [8] [p. 6] 地点・目録などをあらわす「へ」に相当するものに /i/ があらわれる。土佐清水市・大方町・高岡郡旧長者村などで使用される。

[9] [p. 7] saōgu or sawāgu あちこちかはずりまわる。

[10] [p. 7] taNmetima:ru を意図したものであろう。taNneru or taNneru さがす。

[11] [p. 7] sinasu 物をつくりあげる。

[12] [p. 7] 木に墨の線をつけるのである。

[13] [p. 8] 主格をあらわす助詞。

[14] [p. 9] 長いたけの木を意味しているようである。

[15] [p. 10] dake ①断崖 ②石まじりの土。dake が独立して使われることもある。

[16] [p. 10] tu は接頭語。

[17] [p. 10] rin 一種の枕木。

[18] [p. 11] 山の傾斜地に立っている木ゆえ, その木が倒れる際など根が覆のようになっておぼる働きをする。それで, 根を turu と言ったものであろう。



[19] [p. 11] のこぎりの種類。

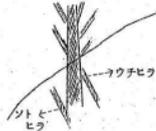
[20] [p. 11] 立木を切った際, 木の重心がのこぎりにかかって来るので, それを避けるために切り口に挿入するもの。

[21] [p. 12] nagasu 「下へ落とす」の意。

[22] [p. 12] 立木の上側。

[23] [p. 12] 立木の下側。

[24] [p. 14] つばの一種か。



(追記)

- * [p. 9] 一種の植木のように, 注17の rin と同じような意味らしい。
- ** [p. 11] 「受口を切る」は倒そうと思う方の側に斧を入れること。
- *** [p. 13] [koso] に近く聞える。

2. 鼻音の思い出話

- (1) [p.16] *date* は「年配」の意。「達」のなまったものようであるが、単なる複数でなく、「年齢層」の意時に重心がうつっている。(浜田数義氏撰)
- (2) [p.16] *ponro* (全部) は、筆者も少年時代長岡郡後免町(現在南関市)近傍でよく使用した。類語に *neŋgoro* : *suqton* があつた。
- (3) [p.16] *hanamai* 足摺畔周辺をいう。
- (4) [p.17] *pai* は、舟を数える単位。須崎市あたりでも使用。
- (5) [p.17] *jonzju*: の前に *meidi* が、ごくかすかに入っている。
- (6) [p.17] *siŋda: djaiko* を目指しているが、*d* と *i* が *silent* になっているし、*ko* もはっきりしない。
- (7) [p.19] もちろん *tokoro*: と表記すべきかもしれぬが、仮りにこのように表記しておく。
- (8) [p.19] このような場合、幡多方言では助詞の *te* が省略しないことがしばしばある。
- (9) [p.22] *do*: *ju*: と分けて書くことが考えられる。
- (10) [p.22] 浜田数義氏によれば、*honno* は、副詞であるが、実質的には感動詞に近いという。
- (11) [p.22] *kurai* は、野菜などの株を数える単位。
- (12) [p.22] *hagiri* だらいの形で、更に大型の株。
- (13) [p.22] *jamasan* 三という家の屋号。地蔵のとき家が潰されたらしい。
- (14) [p.23] *ga* に独立性の強いと思われるときは、仮りに分けて表記した。
- (15) [p.23] *kosan* 目上に対してのみ使用する。若い人は使用しない。
- (16) [p.24] *ju: te* ことばの間に自然にはきまごつた一種の発語。
- (17) [p.31] 一般には *waru: temo* であるが、老人にはこのような特殊の言い方がある。
- (18) [p.31] *ako* (あそこ) 幡多地方のみならず、県下で広く使用される。(長岡郡大森村などを除く)
- (19) [p.32] 鼻音の関係で明瞭性を欠く。*sikizitu* を愛用したものか。ちなみに「しき」は、浜田数義氏「大方町方言集」に、「正月、盆など年中行事として決っている休日」とある。
- (20) [p.33] 話の途中にはきむ一語の間ことば。ただし一般には使われぬ。
- * [p.22] (o: rjo)(o: rijo) あたりを目指していると思われるが、(dgi: ro) に近く聞こえる。

非売品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町

